

平成20年8月8日

北東アジアにおける12フィートコンテナの普及拡大に向けた調査

～第1回検討委員会を開催～

九州運輸局では昨年3月に発出された北部九州国際物流戦略チームの提言及び本年5月に岡山で開催された第2回日中韓物流大臣会合における共同声明を受け、12フィートコンテナの普及拡大に向けた更なる研究の必要性があるとの認識から、本年度「北東アジアにおける12フィートコンテナの普及拡大に向けた調査」を実施することとしています。

海上コンテナ輸送は20フィートや40フィートコンテナが一般的ですが、12フィートコンテナは我が国の鉄道輸送の主流であり、現在の物流業界においては環境負荷軽減という社会的要請や多頻度小ロット輸送手段の確立が求められていることから、非常に利用価値の大きい輸送資材と考えられます。

特に北部九州は東アジア地域との距離が近いという地理的優位性を有し、国際フェリー・RORO船ネットワークも充実しており、また、JR貨物では、東アジアにおける国際物流の増加に対応するための26両編成走行を可能とする北九州・福岡間の鉄道貨物輸送力増強事業に着手しているところです。

そのような状況を踏まえ、12フィートコンテナの普及拡大方策の検討や次年度以降の実証実験に向けたモデル設計等を行うことを目的とした検討委員会を設置し、下記のとおり第1回委員会を開催することといたしました。

記

1. 委員会名 「北東アジア12フィートコンテナ普及拡大検討委員会」
2. 開催日時 平成20年8月28日(木)15時30分～17時
3. 開催場所 福岡合同庁舎新館 九州運輸局 10階会議室
(福岡市博多区博多駅東2-11-1)
4. 議 題 (1)12フィートコンテナ流動の現状について
(2)12フィートコンテナ普及拡大のためのアンケート調査の実施について
(3)その他
(4)質疑応答・意見交換
5. 委 員 九州国際大学准教授、日本貨物鉄道(株)九州支社、日本通運(株)
門司税関、国土交通省、(財)九州経済調査協会
6. 取 材 会議は傍聴可及び頭撮り可です
7. スケジュール 検討委員会は平成20年度内に3回程度開催予定

連絡先：九州運輸局 交通環境部 物流課
担当：川原、鹿毛、才田
電話 092-472-3154

北東アジアにおける12フィートコンテナの普及拡大に向けた調査

背景

- 日中韓物流大臣会合共同声明による12フィートコンテナの普及拡大に向けた研究の必要性
- 博多・下関における対韓国とのレール・アンド・シー・アンド・レールサービスの開始
- 東アジアにおける国際物流の増加に対応するための北九州・福岡間の鉄道・貨物輸送力増強事業の開始

(参考) 北部九州国際物流戦略チーム
北部九州における国際物流機能強化に向けた取組みへの戦略チーム提言(平成19年3月)

北部九州における国際物流機能強化に向けた具体的な取組み

①国際RORO機能の強化

②外貨コンテナ機能の強化

取組: 12フィート、45フィート等多様なコンテナサービス向上の実現

③ロジスティクス・ハブ機能の強化

④国内輸送網との結節機能の強化

取組: 鉄道輸送、内航フィーダーとの結節機能強化等による輸送コスト・環境負荷低減の実現

⑤国際航空路線拡充等による多様な輸送手段の強化

⑥国際物流基幹ネットワークの推進の強化

調査スキーム

○12フィートコンテナ利用状況等の把握

- ・日韓、日中間における12フィートコンテナ輸送量の推移
- ・日中韓3国における12フィートコンテナの普及状況
- ・各国における12フィートコンテナの仕様、規格等
- ・12フィート、20フィート、40フィートの3種類のサイズのコンテナの通関上の取扱
- ・現在実施されている日韓レール・アンド・シー・アンド・レールサービスの概要や利用状況
- ・荷主ヒアリングによる12フィートコンテナの利用に対するニーズ把握

○関係機関による検討委員会の設置

- ・JR貨物を始め物流事業者等を構成員として12フィートコンテナの普及拡大方策等について検討

○シー・アンド・レールの実証実験の可能性を総合的に評価

- ・検討委員会による実証実験に向けたモデル設計(輸送手段だけでなく、付加価値の付与まで検討)

○シー・アンド・レール実証実験の実施



国際RORO船(上海スーパーエクスプレス)



12ftコンテナ

検討委員会メンバー

学識経験者、JR貨物、通運関連業者、物流関連業者、国機関(国土交通本省、税関、整備局、運輸局)、荷主企業(適宜招請)

検討委員会スケジュール(案)

- 第1回検討委員会…8月28日
 - ・12フィートコンテナの輸送量等の把握 ・調査追加項目等の確認
- 第2回検討委員会…11月初旬頃
 - ・ヒアリング等調査結果の報告
 - ・12フィートコンテナの普及拡大方策等の検討
 - ・実証実験に向けたモデル設計の検討
- 第3回検討委員会…1月中旬～下旬頃
 - ・調査研究の成果の確認 ・モデル設計の評価
- 成果物…3月初旬頃



第2回 日中韓物流大臣会合 共同声明の概要

- (1) 「日中韓物流協力3大目標」の合意。
 - ① シームレス物流システムの実現
 - ② 環境にやさしい物流の構築
 - ③ 安全かつ効率的な物流の両立

- (2) 3大目標の達成に向けた「行動計画」に係る具体的事項について合意。
 - ① 事業者の効率的で低コストな海外ビジネス活動を支援するための努力の継続及び他の政府機関との連携。
 - ② シャーシの相互通行調査を深度化させるため、2008年中にワーキンググループを設置。
 - ③ 12フィートコンテナやパレットサイズの標準化に向けた取組を推進。
 - ④ 物流情報ネットワークシステムの構築や海上分野だけでなく航空貨物輸送に関する情報・統計の交換についての検討。
 - ⑤ 北東アジア港湾局長会議の報告を承認。
 - ⑥ 環境にやさしいグリーン物流に関する専門家会合を2008年中に日本において開催。

- (3) 本会合の名称を、「China-Japan-Korea Ministerial Conference on Maritime Transport and Logistics」から「Maritime」を削除し、「China-Japan-Korea Ministerial Conference on Transport and Logistics」に改称。

- (4) 12項目の行動計画を体系的に実施するために、3国の参加によるワーキンググループを設置。

- (5) 3国の緊密なコミュニケーションの継続とパートナーシップの拡大・深度化を約束。

- (6) 次回の大臣会合は、2009年に中国で開催。